

Ichiba journal Canvas vol. 05

安心できるつながりの中で、自らの学びを楽しみ、新たな価値を生み出す児童の育成
～造形的な見方・考え方を働かせながら、自分の思いを表現できる学びの工夫～

「習慣型国語」 ～自分の言葉で考え、表現する力を～

日増しに秋の深まりを感じるようになりました。「読書の秋」ともいわれる季節。「今日は何読もうかな!」「今日はこれにしよう!」と、そんな声の間こえてくる市場小学校の朝は読書からスタートします。

2学期より全校で取り組んでいる「習慣型国語」の取組です。どの学年も8時30分の始業のチャイムで読書をスタートし、その後、朝の会も組み込みながら1時間目の始まるまでの20分間を音読、トークタイム、漢字・文法など、「国語」に関わる力を育むための活動を組み合わせて行っています。「国語工作科」の研究協力校として、研究を進めています。それを通じて子どもたちに育みたいのは、主題の通り「安心できるつながり」「自らの学びを楽しみ、デザインする力」「自分の思いを表現する力」です。それらの力を育むには、土台としての学級づくりや、他教科との関連が大切だと考えています。

4年生 国語工作科

「どろどろ カッチン」



先日、4年生で行った国語工作科「どろどろカッチン」の学習。どろどろの液体粘土を浸した布を固めた形から、表したいことを見つけ、自分の想像した世界やものを立体的に表す題材です。この学習の中で「見方を変え、想像を膨らませる」ことができるようにと、取り組んでいたのが、先ほど紹介した「習慣型国語」の中のトークタイムを活用しての「お話づくり」です。グループで、1人1文ずつ順番にお話を作り、つなげていきます。自分とは違う友達のことを聞き、新たな見方や考え方を広げながら、協働する楽しさや良さを感じる時間を積み重ねること。それが、学習に結びついていきます。このように、日々の活動とそれぞれの教科での学びがつながり合うことの大切さを認識した上で、それを意識しての取組を進めています。



朝から教室に溢れる笑顔
「それおもしろい!」「ちょっと展開早すぎん?」「と自然に弾む会話。安心して自分の思いを出すことのできるつながりが大切ですね!」

そのような中で始まった学習。事前に集めてきていたペットボトルや空き容器等に、液体粘土を浸した布を乗せて垂らしたり、巻き付けたり、ねじったりして、形を作っていきます。「丸っぽくしたい!」と形をイメージしながら、感じるままに偶然出来上がる形を楽しみながらの子も、それぞれの取り組み方で学びに向かっています。普段固まるはずのない形が立体として残る不思議さと魅力。1週間後、「カッチン!」と固まった布を見て、嬉しそうなお子もたくさんいました。

そして、いざ出来上がった形から想像を広げていきます。「想像を膨らませる」というのは言うよりも簡単なことではありません。そのためにはたくさんの「視点」を持つことが大切です。「向き」「形(直線・曲線・高さなど)」「色」「手触り」などの視点から見方を変えていきます。「逆さにしたらお風呂に見えてきた!」「写真をとってタブレットで色を塗ってみたい、さらにイメージ膨らんだ。」と、色々な角度から見つめることで、新たな価値が生まれていきました。また、グループでお互いの作品を見て話し合うことで、「はじめは何にも見えてなかったんだけど、話して最終的に動物に見えてきた!」と話す子の姿もありました。

見方を変えることで、また、そのヒントを友達との協働の中で得られることで自分の学びを深めていく。そんな子ども達の姿を見ることのできる嬉しい時間となりました。



子どもたちの振り返りより

- 最初はふじさんと思ってたけど、色々な方向からタブレットで写真をとって見てみると、ペンギンに見えてきて、最終的に、ペンギンを作っていくことにした。色々なところから見るとちがうものに見えるのがおもしろいと思った。
- (どんな世界に見えるか色々な方向から見ているというめあてを立てて) どんなものを作っていくかイメージがついた。ひっくり返してみると最初に思っていたものからちがうものに見えてきたのがおもしろかったし、友達の見方を聞きながらそんな見方ができる人だと知ることができた。

